



口腔ケア情報

Brushup

Ver.43

歯のかみ合わせについて①

噛み合わせが失われると転びやすくなる

歯の欠損によって噛み合わせが失われると、全身のバランスをとることが難しくなります。結果、転びやすくなり、骨折から車椅子、寝たきりにつながりやすくなるのです。65歳以上の健康な人で歯が20本以上ある人と、19本以下で義歯未使用の人を比べると、後者は転倒のリスクが2.5倍になるという調査結果もあります。歯を失って年に何度も転んでいた高齢者が入れ歯を入れたら、翌年は一度も転ばなかったという例もあるほどです。転ばないためには、入れ歯を使うことも重要です。

入院先の病院や入居先の老人ホーム等では、体調不良をきっかけに、入れ歯を外されてしまうことがあります。例えば、体調不良から食事を入れ歯の必要のないペースト食に切り替えられた場合や、肺炎などで食べることを中止された場合などです。このような状況で問題になるのが、回復後に入れ歯が入らなくなってしまうこと。その結果、認知症が進む、寝たきりになるなどの弊害が起こり、様々な機能が一気に弱まってしまうことが多々あります。たとえペースト食でも、たとえ一時的に口から食べていなくても、入れ歯を入れておくメリットは少なくないのです。

